

# キッズサポーター養成講座 で やさしいまちづくり

大阪府四條畷市  
四條畷第3地域包括支援センター

# 大阪府四條畷市



四條畷市の人口

55383名

65歳以上

14989名

高齢化率

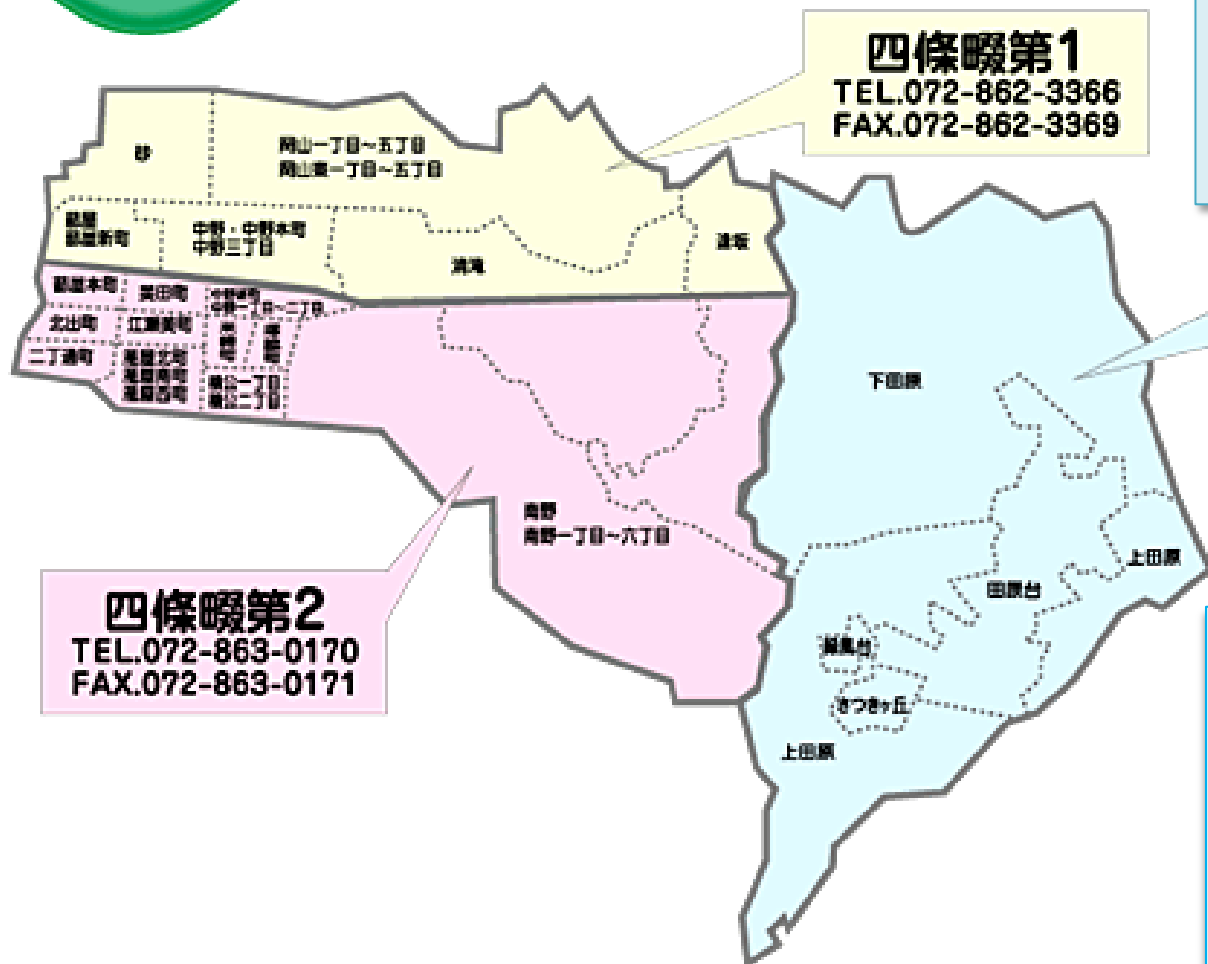
27.1%

|            |            |            |            |            |            |            |            |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 3,173名     | 4,115名     | 3,615名     | 2,289名     | 1,188名     | 495名       | 120名       | 25名        |
| 65~69<br>歳 | 70~74<br>歳 | 75~79<br>歳 | 80~84<br>歳 | 85~89<br>歳 | 90~94<br>歳 | 95~99<br>歳 | 100歳<br>以上 |

令和3年1月31日現在

# 四條畷市

四條畷市の人口 55383名  
65歳以上 14989名  
高齢化率 27.1%



**四條畷第1**  
TEL.072-862-3366  
FAX.072-862-3369

田原地域の人口 9,181名  
世帯数 3,524世帯  
65歳以上 2,036名  
高齢化率 22.2%

**四條畷第3**  
TEL.0743-70-1249  
FAX.0743-70-1249

**四條畷第2**  
TEL.072-863-0170  
FAX.072-863-0171

**四條畷市田原地域**  
中学校 1校  
小学校 1校  
介護老人保健施設 1  
特別養護老人ホーム 1  
地域包括支援センター 1

# 2017年

認知症になっても  
だいじょうぶ!

## 認知症フォーラム

田原地域で身体も心も元気にすごしたい!

平成29年

9/9

(土)  
13時30分~

入場無料



“田原地域の  
生き生き活動”を紹介!

民生委員の活動、  
カラコ体操活動、  
サロン活動など



講演

『認知症になっても  
住みやすい町をめざして』

◆佐瀬 美恵子氏

(岡山学院大学・関西学院大学など非常勤講師)

◆三宅 眞理氏

(関西医科大学公衆衛生学講座講師)

ミニコンサート

音楽家 奥野 勝利氏

横浜生まれ、シンガポール育ち、  
アメリカの音楽大学卒業。  
広島を拠点にし高齢者施設や  
仮設住宅等でコンサート活動を  
展開中



◆場 所 阪奈中央リハビリテーション専門学校 3階大講堂  
(住所: 四條畷市田原台6-4-43) 田原台センターバス停下車、徒歩約3分

無料駐車場あり

◆問合せ 0743-70-1249 (吉川) / 0743-78-9499 (前原)

◆主催: 四條畷第3地域包括支援センター / 後援: 医療法人和幸会

# 2018年

## いきいきフォーラム

田原地域で身体も心も元気にすごしたい!

平成30年

9/15

(土)  
13時30分~

入場無料



第1部 講演



認知症になっても  
住みよい町をめざして

講師 佐瀬美恵子氏  
(関西学院大学・岡山学院大学非常勤講師)

フレイル予防は健康長寿の鍵

講師 三宅 眞理氏  
(関西医科大学公衆衛生学講師)

第2部 活動報告

いきいき活動を行なっ  
ている地域の取り組み

寺井博文氏(上田地区 区長)  
小西康弘氏(田原台長寿会 会長)

フィットネス教室の取り組み

上野愛美氏  
(パークヒルズ田原苑 健康運動指導士)

第3部 質疑応答

意見交換



◆場 所 阪奈中央リハビリテーション専門学校 3階大講堂  
(住所: 四條畷市田原台6-4-43) 田原台センターバス停下車、徒歩約6分

無料駐車場あり



# 認知症フォーラム



住民による発表



パネルディスカッション



講師の講義

# 田原地域合同連携会議

民生委員  
地域包括支援センター  
社会福祉協議会  
コミュニティソーシャルワーカー（CSW）  
生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）  
認知症初期集中支援チーム  
医療法人和幸会

2か月に一度  
情報交換・連携・交流



小学生が下校時、  
認知症のお年寄り  
をからかっていて  
問題になっている  
との発言があった

2019年5月



# 親子で認知症サポーター養成講座

## 「親子で介護を学ぼう」

2019年7月26日



車椅子体験

ごっくんのしくみ

会場 介護老人保健施設  
パークヒルズ田原苑 ふれあい広場





### 1 地域のいきいき活動報告

田原地域子育てサロン  
「カンガルーホップ」

旭恵美里 代表

子育て中の親子が集う明るく楽しいサロンです。季節の行事をはじめお友達づくりのきっかけになる場所になればと活動を続けています。

田原ライフセーバーズ

松田 誠二 会長

青色パトロール、こどもの安全見守り、深夜フクロウパトロール、春の交通安全運動、地域のイベントの参加・協力などの活動をしています。

### 2 「やさしいまちづくり、やさしいひとづくり」

～『誰にもやさしいまち』って、どんなまち?～

講師 田中 克博 氏

精華町キャラバン・メイト連絡会 代表  
現、大阪府都市整備部安威川ダム建設事務所次長

大阪府福祉部高齢介護室所員時に「介護保険制度」「地域包括ケアシステム」「認知症対策」等を担当。

また、地元の精華町で、福祉専門職だけでなく、一般住民を主なメンバーとする精華町キャラバン・メイト連絡会を組織し、「認知症」をキーワードに「誰もが安心して暮らし続けるまちづくり」に取り組んでいる。

特に、「相手の立場に立って、相手の事を思いやれる、やさしい人になりましょう!」をテーマとした講座を、町内5小学校、3中学校、1高校で開催。精華町での活動は、ACジャパンの支援キャンペーンCM「小中学生サポーター」で取り上げられたほか、第32回国際アルツハイマー病協会国際会議（於 国立京都国際会館）、第33回同会議（於 シカゴ）で報告された。

### 3

#### 四條畷市の認知症施策

四條畷市健康福祉部 高齢福祉課  
阪本 律子 課長

#### 認知症の方々とのかかわり方

四條畷市認知症 初期集中支援チーム  
有村 由美子 看護部長  
医療法人和幸会 阪奈サナトリウム

#### ◆場 所

阪奈中央リハビリテーション専門学校  
3階大講堂

(住所:四條畷市田原台6-4-43)  
田原台センターバス停下車、徒歩約6分

無料  
駐車場あり



◆問合せ 0743-70-1249 (吉川) / 0743-78-9499 (前原)

◆主催:四條畷第3地域包括支援センター ◆共催:医療法人和幸会/いきいきフォーラム実行委員会

# いきいきフォーラム

2019年9月7日開催

みんなでつくろう!  
「やさしいまち」

地域の子供支援の  
活動をしている  
ボランティアの発表

他市のキャラバンメイト  
連絡会代表の講演・小学  
校での取り組み発表

田原小学校の先生方  
小学生の親たちへ  
参加のよびかけをする



# 認知症キッズサポータ養成講座の実現

田原小学校3年総合授業 91人 2019年10月16日



会場 田原小学校 多目的室

四條畷第3地域包括支援センター

四條畷市高齢福祉課 認知症地域支援推進員

# 2019年プログラム



## 導入「認知症って知っていますか？」

- ・ 絵本でわかりやすく
- ・ GPS 入り靴の紹介



## 認知症の基礎知識

- ・ ○×クイズ方式で問いながら考えてもらう
- ・ 認知症の種類・対応の仕方



## ジュニアサポーターの役割

- ・ テキストとリンクの配布
- ・ アンケート記入

# 認知症キッズサポーター養成講座の継続 2020年の実施に当たって検討

## 学校側と打ち合わせをする

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策をしたうえで実現可能な方法を考える

- ①距離を開けて 密にならないようにする
- ②大きな声を出さないようにする
- ③実施場所 3年生全員の集合で行うのではなく  
それぞれのクラスの教室で行う  
1組 36人  
2組 36人



# プログラムの内容を学校側と 打ち合わせ

- ①小学3年生にとって理解しやすい内容か検討する
- ②脳の病変の表現について  
恐怖心を持たないか確認する
- ③児童に伝わる言葉を厳選する
- ④児童の関心が常に向くように、数分ごとに  
クイズを出す
- ⑤45分間の授業時間をつかってわかりやすく  
パワーポイントの内容を吟味する

# 各教室でキッズサポーター養成講座実施

2020年10月8日



# 2020年プログラム

- 1、 四條畷市の公的支援 3つの見守り・お守り
- 2、 超高齢社会について
- 3、 認知症とは クイズ方式
- 4、 認知症の症状と理解
- 5、 認知症の人の心の状態
- 6、 認知症の人への対応の仕方
- 7、 認知症サポーターとは
- 8、 やさしい町づくりをみんなで作ろう

使用したスライドの一部を1/4に縮小して紹介します



# 3つの見まもり おまもり

一人あるきにふあんの  
ある人、かぞくの人へ



## ①QR（キューアール） コードシール



服やカバンにつけて、みちにまよった  
ときに、はやく見つけてもらい、かぞく  
のもとに帰れるようにします

認知症支援推進員から  
公的に使える支援について説明

児童が家に帰ってから  
家族の人に話す事も想定  
して話しました。

漢字は、2年生までに習っ  
たものを使用しました。

## ②SOS（エスオーエス） ネットワーク

みちにまよったときに、きょうりよく  
しゃにメールをおくり、はやくさがし  
だします



認知症により、  
迷子になる高齢者の話。  
道に迷われた時に協力登  
録事業者のネットワークの  
力で早期に探し出すシス  
テムの紹介

## ③いちたんちき(GPS)



GPS（ジーピーエス）がうめこまれたくつを  
はいていると、ゆくえふめいになったとき  
に、いばしょをさがすことができます

GPSが埋め込まれている靴に  
対して興味深い反応でした

♥ 子どもも ♥ おとなも ♥

みんなで作ろう

♥ やさしい町 ♥

認知症（にんちしょう）

って、なあに？

ちょう高れい社会

みなさんが  
お父さんやお母さんくらいの  
年になるころには

**3人に1人**は、お年より  
になります。

ここからは、  
キャラバンメイトが説明

教室にいる児童の人数に例  
えて「3人に1人」がどのよう  
な状態か想像してもらいます。  
それによって、自分事として  
捉えることを促しました。



子どもが少なく、お年よりの多い



もんだい： 1

にん知しょうは、年をとれば  
だれでもなるかもしれない  
びょう気です。



想像するのが難しい場合でも、イラストを見ると記憶に残りやすいことを踏まえてイラストを使って念を押します。

自分事として捉えられたタイミングで、クイズを出します。

ここで、自分で考える機会を設けます。答えを出すタイミングは、反応を見ながら遅めに出します。

# 1 のこたえ



## もんだい： 2

おじいちゃん、  
おばあちゃんの  
**6 人に 1 人**が、  
**にん知しょう**と  
言われている。



病気への恐怖心を植え付けない工夫として、あえての笑顔イラストを使用。

まずは、〇×に興味を持ってもらい「認知症は、誰もがなる可能性がある。」という事実を覚えてもらう事を狙います。

表現の工夫：

高齢者という言葉や、65歳以上の人という表現では低学年に上手く伝わらない可能性が高いと判断しました。

そこで、話し合い「おじいちゃん、おばあちゃん」という表現を使用しました。

ここでも、教室の人数に例えて「6人に1人」が、どういう状況か想像してもらいます。

## 2のこたえ



もんだい：3

にん知しょうになると  
なおらない。

このもんだいは、 $\bigcirc \triangle \times$   
でこたえてください。

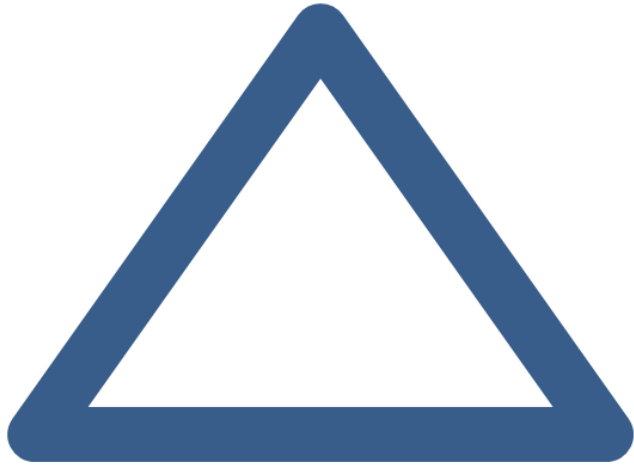
児童の反応：

「6人に1人」が多いか少ないかで、均等に意見が分かれていました。この数字を知って「認知症は、誰でもなるんだなあと思った。」とのことでした。

この問題は、 $\bigcirc \times$ クイズなのに $\triangle$ を混ぜています。勘のいい児童は $\triangle$ を選ぶことも想定しています。

では、 $\triangle$ とはこういった状況を指すのか考える時間を作りました。

3 のこたえ



中には、

なおるびょう気が

かくれていることが

あります。

児童の反応：

○を選んだ人が少数。△を選んだ人が多数。×を選んだ人は、確信を持っていた様子が伺えました。

認知症は治らない病気と認識しているか、単にゲーム感覚で×を選んだ可能性もあります。

児童の反応：「おおお〜。」と、新しい知識を得た時の反応が伺えました。



にん知しょうって

何だろう？

のうの血かんが切れた。



ここで、改めて本題を問いかけます。この時点で、児童は「知りたいモード」に入っていた様子が伺えました。

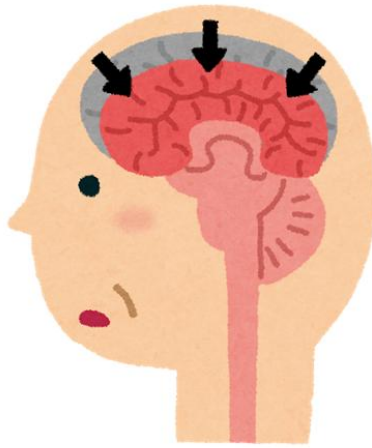
次のスライドで、病理の説明をするための前振りとしました。

「認知症の人は怖い」などの印象を持たせない工夫：

脳の病理に触れる際は、ソフトなイラストをチョイス。

更に、小学校との事前の打ち合わせでイラストと表現が児童に恐怖心を持たれないか担当教員に確認しました。

のうが ちぢんだ。



児童の反応：

「脳の血管が切れたり脳が縮むという事が、脳死に似ていると思ったが脳死ではないのですか？」と質問があり、かなり大人びた反応で、びっくりしました。

のうに、にん知しょうの原いんになるものがたまった。



表現の工夫：

最初は「脳に不要な物質が溜まった。」としていました。検討した結果「不要な物質」という言い回しが不適切ではないかという結論になり、表現を変更しました。

のうの細ぼうのびょう気で、

さまざまな**しょうじょう**が  
あらわれます。

大切なものを、  
どこにしまったか**わすれる**。



病気が原因で、症状が出ている事を強調しています。

児童の反応：

少し難しい表現かと危惧していましたが、それぞれの単語の意味について学習を終えているせいかキョトンとする児童は見受けられませんでした。

児童の反応：

「僕も忘れます。認知症ですか？」という質問が出ました。ここで、物忘れと認知症の違いを説明しました。

出かけたら、道に迷うことがある。



考えるスピードが  
ゆっくりになることがある



児童の反応：

「街で、困っている人に出  
会った事がありますか？」と  
投げかけたところ、手を挙げ  
た人はいませんでした。

イラストのチョイスの是非につ  
いて：

脳のイラストへ恐怖心を持た  
れないかを小学校と話し合っ  
た結果、このまま使用しました。



新しいきかいが  
にが手になることもある。



新しいことを覚えるのが難しい。  
覚えても忘れやすい。  
個々によって苦手なことがちがうなど説明

早口だと、何を言っているのか  
りかひできないことがある



ゆっくり  
はっきり  
つたえることの大切さを説明

わすれて、まわりが困る  
はつ言をすることがある



## 心のじょうたい

せいかく や かんきょう、  
心のじょうたいによって出るしょう  
じょう

まわりの人の助けがあれば、  
よくなります

くすりを、のみわすれる。



おきばしょをわすれ、  
さいふをなくして、  
取られたと思うことがある。



わすれることを、なやんでいる。



元気がなくなる。



表現の工夫：

認知症と自覚しつつ病状が進行していく人の辛さを知っていただくために、わかりやすい表現を厳選しました。

児童の反応：

「認知症になって物覚えが悪い事は悲しいけど、元気でいてくれるならいてほしい。」とのことです。

児童の反応：「僕のおばあちゃん  
は入院していて、僕がお泊りに  
行ってあげるとおばあちゃんは  
笑ってくれて僕は嬉しい気持ちで  
す。これから、おばあちゃんのこと  
を大切にしたいです。」  
という気づきに繋がりました。

まわりの人がやさしくすると  
気持ちがおだやかになる。



もんだい： 4

にん知しょうは  
たいへんなびょう気で  
にん知しょうになると  
ひとりぐらしはできない。



やさしく声をかける  
やさしい笑顔をみせると  
おだやかな表情になる。

児童の反応：

この質問は、ザワつきました。  
大変な病気だと認識してい  
る児童が多く、1人暮らしは  
出来ないのではないかと考  
える児童が多く見受けられ  
ました。



## 4のこたえ



もんだい：5

にん知しょうになると  
なにもできなくなる。



児童の反応：

ここで色々な意見が飛び交いました。

×を選んだ児童は、何が出来るか考えていました。

## 5のこたえ



イラストの工夫：

本来であれば「出来る事がある。」ことは喜ばしいことですが、○は笑顔、×は悲しい顔でイラストを統一しています。

できる事は、たくさんある。



イラストの工夫：

認知症になっても家事ができる人は沢山います。特に調理は、続ける人も多いのでこのイラストを選びました。



もんだい： 6

にん知しょうの人は、  
耳が聞こえにくいので  
大きな声でよぶといい。

**大きな声**ではなしかけたり、  
後ろから声をかけたりすると  
**びっくり**して  
**こんらん**してしまいます。

6 のこたえ



もんだい： 7



にん知しょうサポーターは、  
とくべつなことをするのではなくて、

にん知しょうの人の  
りかい者（おうえん者）です。

## 7 のこたえ



児童の反応：  
「認知になるのは怖いけど、  
オレンジリングをつけたら認  
知症になった人を助けられ  
る。」という意見が出ていま  
す。



オレンジリングは、やさしさのしるし。



町じゅうの人が**りかい者**になれば  
きっと安心してくらしていける



児童の反応：

「認知症は高齢者だけでなく、若い人もなるから今日もらったオレンジリングを外出する時にはつけます。」という意見が出ました。

イラストの工夫：

地域共生社会とは何かを、一目でわかるイラストを使用。キッズサポーターに何を期待しているかを、一言にまとめました。

ちいきのみんなで、ささえ合い。  
田原はひとつ。



児童は、田原地域のスローガン「田原はひとつ」の横断幕を毎日見て登校しています。ここでは、それを強調しました。

リスク回避の工夫：講座を受けた児童が、街や病院で認知症かもしれない人と出会った場合、児童だけでは対応が困難と考えます。

このため「困っている人が居る、何度も同じ事を聞いてくる人に出会った時は、近くの人やお家の人に相談しましょう。」と説明しています。

さあ、**今日から**何ができるか  
さがしましょう



# 授業の最後に、担任からのひとこと

ぼくのおばあちゃんも認知症でした・・・と  
声を詰まらせながら児童たちに語り始めた。  
自分のことも分からなくなって亡くなった、、、

実話に基づいた話に児童たちもしっかりと耳  
を傾けて真剣に聞いていた。先生の話に共感  
して涙を浮かべていた児童もいた。  
児童たちのところに響いたようでした。

## 子供たちからの感想

- 認知症にもしお母さんやお父さんがなったらやさしくする
- 認知症について詳しく知れてよかった。もっとしりたい。
- 認知症の理解者になったから、やさしく見守ってあげようと思った
- 認知症という病気を知っていろいろな症状がでることをしった
- 元気がなくなって大変な病気なんだなということがわかって、自分のためにもなりいい機会を作ってもらったなと思った。
- 認知症の方でもできることはいっぱいあるから、先にできないことをするのではなく、できることからしたほうがいいし、認知症のことを教えてもらって、しんどい中たえている人たちがいたなんて思いませんでした
- たくさん知ったのでお母さんに話そうと思います
- ぼくがお泊りに行くとおばあちゃんが笑ってくれてぼくはうれしい気持ちです。これからはおばあちゃんのことを大切にしたいです
- この世にはまだまだ僕たちが知らない病気があると気づきました。もっといろんな病気の対処法を学んで、病気に苦しんでいる人達の少しでも力になって、元気いっぱいにして、地球の中を花いっぱいにして、たくさんの人を元気にしたい。



# 認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～

## 1 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進

- (1) 認知症の人の視点に立って認知症への社会の理解を深めるキャンペーンの実施
- (3) 学校教育等における認知症の人を含む高齢者への理解の推進

- 社会全体で認知症の人を支える基盤として、認知症の人の視点に立って認知症への社会の理解を深めるキャンペーンを実施。【厚生労働省】
- 学校教育等における認知症の人を含む高齢者への理解の推進など認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進を図る。【厚生労働省】【文部科学省】

### ① 認知症の人の視点に立って認知症への社会の理解を深めるキャンペーンの実施

- 広告等を通じて、認知症への社会の理解を深めるための**全国的なキャンペーンを展開**
- 認知症に対する画一的で否定的なイメージを払拭する観点からも、**認知症の人が自らの言葉でそのメッセージを語る姿等を積極的に発信**

### ② 学校教育等における認知症の人を含む高齢者への理解の推進

- 高齢者との交流活動など、高齢社会の現状や認知症の人を含む**高齢者に対する理解を深めるような教育を推進**
- **小・中学校での認知症サポーター養成講座の開催**等を利用した認知症に関する正しい理解の普及
- **大学等**において、**学生がボランティアとして認知症高齢者等と関わる機会を持つ**ことができるよう、自主的な取組を推進

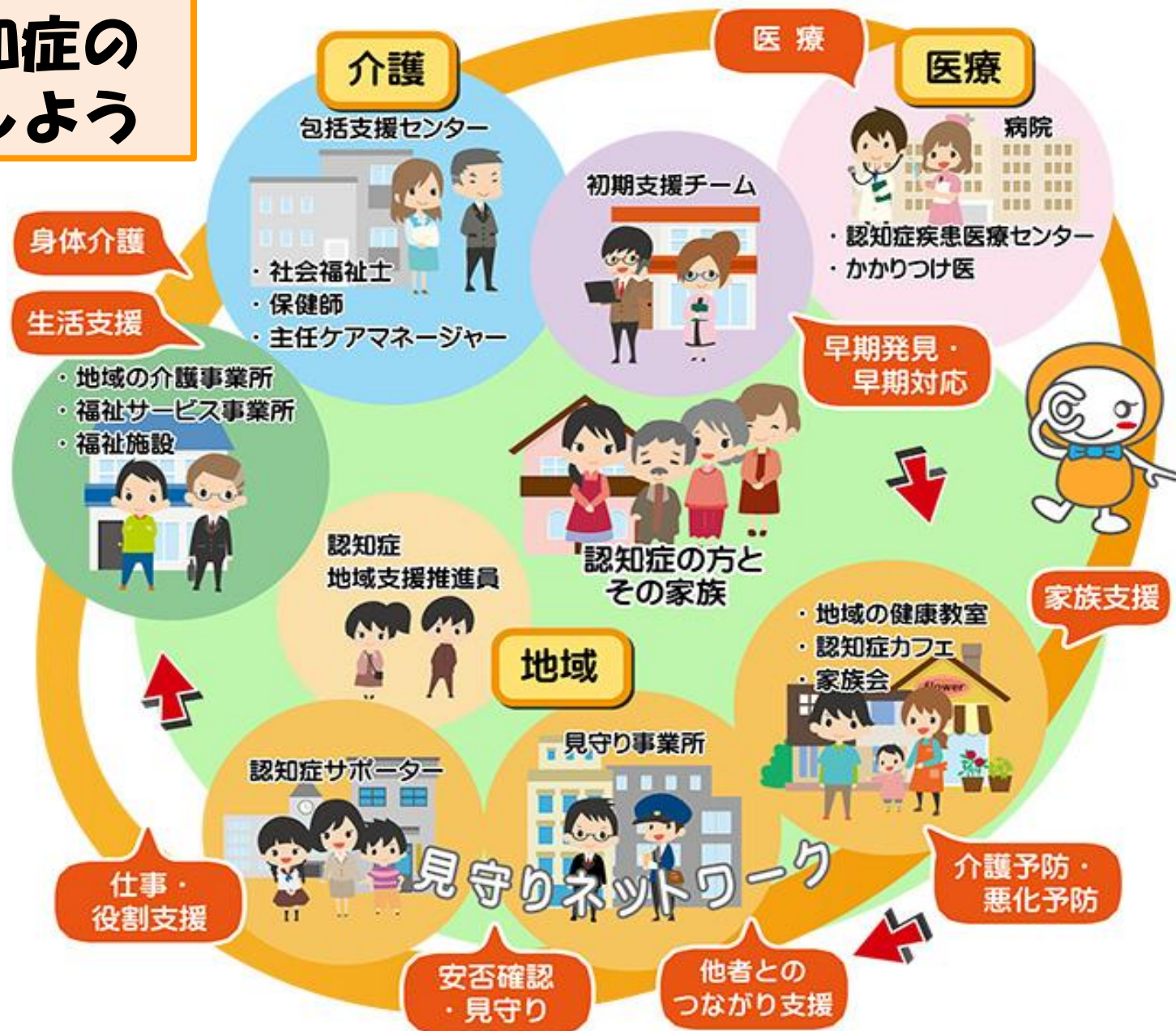


認知症は皆にとって身近な病気であることを社会全体として確認



おとなも子どもも  
みんなで認知症の  
ことを理解しよう

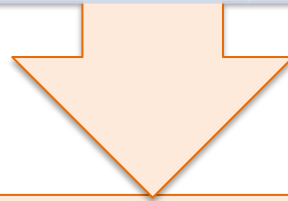
田原は  
ひとつ



# 子供たちが認知症のことを理解する

キッズサポーター養成講座

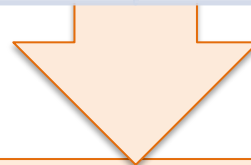
高齢者とのふれあい



## 人のことを思いやれるやさしい子どもたち

周りにいる人にやさしい

助け合い支えあうところ



## やさしいひとづくり、やさしいまちづくり

誰もが安心して暮らし続けるまちづくり



# 田原はひとつ

やさしいひとづくり、やさしいまちづくり

